（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	就労準備型芳泉（クラス３：ほうせん　津島２）			
○保護者評価実施期間	令和　7　年　11　月　14　日	～	令和　7　年　12　月　20　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29人	（回答者数）	29人
○従業者評価実施期間	令和　7　年　11　月　14　日	～	令和　7　年　12　月　20　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16人	（回答者数）	10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和　8　年　3　月　12　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域の小学校に通うこども達が利用しており、学年の異なる子ども達とのコミュニケーションも深めることができています	自然に任せると、仲の良い子同士で固まったり、年上の子どもが主導し過ぎる」「年下が遠慮する」等の偏りが出やすいので、意図的に関りが生まれる工夫を、活動を通じて行っています	具体的には、活動の際、2～3人のグループに分かれ、リーダー・サポート・チェック等割り振り、毎回固定しないようにグループを組んでいます
2	高学年になるタイミングで、中高生クラスへの移行を子どもと保護者と話し合いながら検討しています	学年で判断するのではなく、発達や社会性等も踏まえ検討していきます。自分のことは自分で決められるか・集団のルールを理解して動けるか等、本児や保護者・相談員等の意見も含めて柔軟に検討しています	本児と保護者に見学に来てもらい説明をします。その後、保護者なしで体験をしてもらいます。最終的には本児の意見を尊重しつつ移行を進めていきます。更に移行後も、本児や保護者に状況確認を行いながらフォローしています
3	法人内の児童発達支援事業所に通所していた子ども達の中で、ご希望があれば、卒園後に弊事業所の利用へとつないでいます	全ての年長児に対して、早い段階から様々な事業所について選択肢としてお伝えしています	お子さまにとって最もふさわしい施設におつなぎするために、相談員と連携しながら、他事業所の見学も含め保護者にそれぞれの事業所の強みやお子様に合う理由等を伝えています

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時等の対応についての周知が不十分である。具体的にはこどもの安全確保に関して、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知できていない	家族等への情報提供の必要性を把握できていなかった	年度初めに「安全計画の概要」について書面を配布することで、保護者の安心につなげていく取り組みが必要である
2	保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行うことが求められるが、実際に情報提供ができていない	面談時に保護者へアドバイスをすることはあるが、家族支援プログラムに関する研修等の情報提供は行えていない	共に学んでいくために、常にペアレントトレーニングを念頭に置き、研修情報等を保護者に発信していく
3	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解ができていない	確実に利用が決定するのが、園の年度末の繁忙期と重なってしまう	保護者の利用の意向を早めに行い、園や児童発達支援事業所への見学も行えるようにしていく